

第26回夏季ワークショップ案内文

<A コース>

(テーマ) 宗教社会学と道德教育から考える平和教育構築の実践的アプローチ

(講師) 宮里智恵先生 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)

デラコルダ川島ティンカ先生 (広島大学大学院人間社会科学研究科講師)

「平和」は誰もが願うものです。けれども、具体的にどのようなものかと問われると、それは人それぞれかもしれません。また、日ごろ立ち止まって考える機会は多くないものかもしれません。本コースでは、誰もが願う「平和」の実現に向け、学校教育はどのようにアプローチできるのか、ワークショップを通じて一緒に考えていきたいと思えます。

講師2名は広島大学大学院の授業「平和教育の構築への実践的アプローチ」を担当しています。ワークショップでは、1名は「宗教社会学」の視点から、話し合いを通して相手との価値の違いに向き合い、自分の譲れない価値を確認しつつ、他者への理解を深めていきます。もう1名は小学校教諭の経験を活かし、「平和」を希求する子供の育成に向けた「道德教育」の在り方について、実践的な方法を用いながら皆さんと共に考えていきます。

<B コース>

(テーマ) 親密関係に起こる暴力(デートDV含む)の心理的理解と予防

(講師) 相馬敏彦先生 (広島大学大学院人間社会科学研究科准教授)

親密な関係は、互いに情緒を支え合う安全な避難場所・安全基地としての機能を持ち、その継続自体に大きな意味を有します。こうした特質ゆえに、関係の中の暴力は見えにくく、被害の矮小化や加害のエスカレートが生じやすくなります。本ワークショップでは、親密な関係の理解を基盤として、デートDVの生起と深刻化の仕組みを検討します。あわせて、一次予防の意義を確認し、若者を将来の被害・加害の当事者にしないことに加え、被害に気づき支援につなげる第三者としての力を育む予防教育についても取り上げていきます。さらに、潜在的・顕在的暴力の当事者に第三者が介入することの困難さと、実行可能な支援のあり方について、講義とグループワークを通して考察します。

<C コース>

(テーマ) 教育相談に活かす交流分析

(講師) 栗原慎二先生 (広島大学名誉教授、本学会元会長)

改訂生徒指導提要ではアセスメントの重要性が強調されています。的確なかかわりはアセスメントが前提になるからです。アセスメントでは、数量的データにくわえて、面接や教師の観察などの質的データも極めて重要ですが、それはいわば素材で、そのままでは活用できません。これらを統合的に理解を深めることが肝要になります。

今回の講座では私自身が長年活用してきた交流分析をご紹介します。交流分析は、個人にも集団にも、内面にも人間関係にも活用できる汎用性の高さと、教職員の共通言語として活用しやすい点が特徴です。さまざまなデータを的確に解釈し、空回りの実践から脱皮するための理論を手に入れる機会にしませんか。なお、P/A/C や、CP/NP/A/FC/AC、エゴグラム(参加者には事前送付します)についての基本的な理解があることを前提とします。難しい事は求めていますので、ぜひ参加したいと言う方は、事前学習をした上でご参加ください。

<D コース>

(テーマ) SEL—すべての子どもに身につけさせたい社会性と情動の学習—

(講師) 石本雄真先生 (鳥取大学教員養成センター准教授)

本ワークショップでは、「社会性と情動の学習 (SEL; Social and Emotional Learning)」を理論と実践の両面からご紹介するとともに、実際の活動を体験いただきます。SEL は教育相談に活かすものであると同時に、今後の社会で生きていくための力を子どもたちに身につけてもらうためのものであるといえます。具体的には、SEL の基本的な考え方や成立の背景、非認知能力との関係、学校教育における意義を整理し、問題の予防と成長の促進にどう生かせるかを考えます。加えて、実践にかかわる内容として、学校園の中での SEL の位置づけ方や授業や日常の関わりの中で無理なく取り入れる方法について紹介するとともに、感情理解、感情のマネジメント、他者理解、対人スキルの育成につながる活動例を体験していただきます。また、学校全体で継続的に取り組むための視点や、教職員・支援者の連携の重要性についても考えたいと思います。

<E コース>

(テーマ) 「つながり」で支える不登校の理解と支援の実際

(講師) 瀬川知孝先生 (認定 NPO 法人カタリバディレクター)

不登校支援の現場で、一人で悩みを抱え込んでいませんか？複雑化する課題に対し、支援者が孤立せず周囲を巻き込みながら進むための実践知を共に探ります。

不登校児童生徒の増加に伴い、学校・行政において様々な支援策や居場所・学びの場づくりが模索されています。校内教育支援センターの立ち上げ時などに直面する「周囲の理解を得る難しさ」をどう突破するか。新たな居場所や支援策を保護者や子どもたちにどう周知し、支援を必要とする子ども・家庭にいかにつけていくか。また、リソースが限られた地域や学校において、一つの居場所で多様な子どもたちをいかに見立て、関わり、包摂していくか。全国の事例からの学びとワークショップを通じ、具体的な方策を検討します。

一人で頑張る支援から、みんなで支え合う支援を目指して。唯一絶対の答えはありませんが、「それぞれの現場における解」をみんなで考えましょう。

<F コース>

(テーマ) ポジティブ行動支援を活かした子ども理解と教育相談

(講師) 宮木秀雄先生 (山口大学教育学部准教授)

ポジティブ行動支援 (Positive Behavior Support : PBS) とは、子どものポジティブな行動 (本人の QOL 向上に直結する行動) をポジティブな方法 (罰的ではない肯定的、教育的、予防的な方法) で支援するための枠組みであり、応用行動分析学を理論的基盤としています。本ワークショップでは、PBS の基礎的な考え方を押さえた上で、行動の機能に基づく支援の在り方や、具体的な行動支援計画の立て方等について解説します。また、実際に計画を作成する演習を通して、明日からの教育相談に活かせるスキルの習得を目指します。さらに、学校全体で組織的に PBS に取り組む「スクールワイド PBS」について解説し、国内の実践事例も紹介します。子どもも支援者もポジティブになれる教育相談を目指して、PBS について学んでみませんか。

<G コース>

(テーマ) アンケート調査を使った実践論文の作り方

(講師) 山田洋平先生 (福岡教育大学大学院教育学研究科准教授)

「自分の実践の成果を示したい」「自分の実践を論文にまとめたい」と考えている先生方は少なくないのではないのでしょうか。本WSは、アンケート調査の結果を統計的に処理し、実践論文としてまとめたいと考えている方に向けた基礎的な内容について考えていきます。

具体的には、統計を用いる意義、アンケート作成を含めた研究計画の立て方、倫理的配慮について扱います。統計的な分析については概要を紹介する程度にとどめます。なお、本WSは、およそ20名以上の集団を対象とした実践を想定した説明が中心となりますので、あらかじめご留意ください。

教育現場で働く先生方は、日々素晴らしい実践を重ねておられます。そうした実践には、他の先生方にとって参考となる貴重な知見が数多く含まれています。「論文」と聞くと難しい印象を持たれがちですが、日々の実践を「論文」という形にして、ご自身の実践を多くの仲間に伝えてみませんか。